

令和 2 年度 夏の企画展

車いすと戦傷病者

開催趣旨

戦後 75 年を迎える今年、戦傷病者とそのご家族にとって大きな節目の年です。本展では、戦場で脊髄を負傷し、箱根療養所で車いす生活を送った戦傷病者を中心にその労苦を振り返ります。また、車いすそのものにも目を向け、当時の車いすの役割や、戦後のパラリンピックスポーツへの発展についても紹介します。当館所蔵の「箱根式車いす」に加え、最新式の競技用車いすも展示します。

先の大戦で負傷した兵士は、傷の手当、治療を受け、退院（除隊）後には国を銃後で支える傷痍軍人として「再起奉公」するために陸海軍病院でリハビリと職業訓練に励みました。一方で、脊髄損傷など重度の障害を負い、日常生活が困難となった傷痍軍人は社会復帰（再起奉公）がかなわず、箱根療養所で療養生活を送ることになりました。

療養所での車いす生活は、戦中・戦後を通して医療関係者による専門的な療養ケアだけでなく、家族の介護と支援がなければ成り立たないものでした。そうした中で入所者は、竹細工製作などの作業に打ち込み、家族同士の結束も深めながら、戦後は傷痍軍人会の活動やパラリンピック出場に向けて意欲的に取り組んでいきました。

本展では車いすをテーマにしていることから、車いす使用者の目線（高さ）を通して観覧できるよう資料を配置します。

主 催 : しょうけい館（戦傷病者史料館）
会 期 : 令和 2（2020）年 7 月 14 日（火）～9 月 13 日（日）
会 場 : しょうけい館 1 階 企画展示室
入 場 料 : 無料
開 館 時 間 : 10 : 00～17 : 30（入館は 17 : 00 まで）
休 館 日 : 毎週月曜日 <8 月 10 日（月）開館、8 月 11 日（火）休館>
内 覧 会 : 令和 2（2020）年 7 月 14 日（火）10 : 00～11 : 00
資 料 協 力 : (株)オーエックスエンジニアリング

展示構成

1-1.車いすの歴史

このコーナーでは、車いすの歴史について紹介します。日本では、中世に、歩行の困難な人が使用するための「土車」などと呼ばれる四輪の車が登場します。

近代に入ると人力車メーカーが作ったと言われる「廻転自在輪」の記録が残っており、これが国産車いすの第一号だとされています。車いすの量産が始まったのは、日露戦争の頃で、負傷した兵士のために、陸海軍病院や、廢兵院で導入されました。そして、1937（昭和12）年に日中戦争が始まると、戦場で脊髄を損傷する兵士も増加したため、車いすの需要も高まっていったのです。



『小栗判官絵巻』に登場する「土車」
（『皇室の名宝 - 日本美の華 御即位20年記念特別展』2009年、
東京国立博物館、宮内庁、NHK、NHK プロモーション編）

1-2.戦場での脊髄損傷

銃弾の飛び交う戦場では、脊髄に傷を負うことも珍しくありませんでした。先の大戦における脊髄損傷の主な原因は、銃弾を受けた傷（射創^{しやそう}）であり、背後から直接背骨に被弾するだけでなく、首や胸、脇などを貫通して脊髄に達する事例も多くみられました

このコーナーでは、実際の戦場で受けた銃弾や、兵士の受傷原因とその障害が記された「病床日記」を紹介します。



病床日記



摘出弾

1-3. 陸海軍病院での「車いす」

負傷兵は陸海軍病院での治療期間中、車いすに乗って病院内を移動していました。軍の病院で、車いすは「患者運搬車」、「手動散歩車」などと呼ばれていました。これらの名称からは、負傷兵が車いすを日常生活に用いるためのものではなく、患者の歩行（運搬）を助けるものであったということが読み取れます。

脊髄を損傷して歩行などの日常動作が困難となった負傷兵は、病状が安定（症状固定）すると、病院から傷兵院（箱根療養所）へ移り、療養生活を送ることとなりました。

このコーナーでは、傷兵院（箱根療養所）の変遷を写真資料を中心に紹介します。



手動患者散歩車
『院友』（昭和13年第25号）



新京医学学会での写真（昭和13年）

2-1. 車いす生活のはじまり

箱根療養所は、入所者の車いす生活を支えるための様々な設備が整っていました。各自の個室はもちろん、談話室や敷地内の庭園といった屋外、さらには浴室の浴槽の目の前までも車いすでの移動が可能でした。

このコーナーでは、当時の具体的な車いす生活の様子を知ることができる「療養日記」や、箱根療養所の設備などの写真を展示します。



療養日記



スロープのある居住空間

2-2.車いす生活の労苦

入所者の生活に目を向けてみると、戦前から竹彫（竹に文字を刻んだり彫ったりするもの）や竹細工などの作業を行っていました。作業を行うことそのものが、入所者にとって生きることへの励みや喜びにつながっていました。戦後、GHQの政策によって軍人恩給が大幅にカットされた時には、妻たちが行商に出て竹細工を売り、その収入が家計の支えとなりました。

このコーナーでは、家族による介護なくしてはできない生活の様子を示す写真や、竹細工作業について紹介します。



竹細工作業の様子
(自室で作業する入所者)



竹細工作業の様子
(女性たちの作業)

3-1.妻たちの活躍、子どもたちとの記憶

箱根療養所で戦傷病者（戦後「傷痍軍人」から名称変更）の生活を支えていたのは、その妻や家族でした。互いを支えあう療養所全体がひとつの家族だという戦傷病者もいました。

このコーナーでは、写真や家族の記した資料を通して、戦傷病者からみた家族、家族から見た戦傷病者を紹介します。



療養所の子どもたちが車いすを押す写真



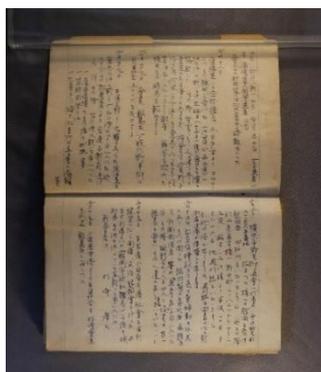
療養所雑誌『函嶺』

3-2.妻の会、傷痍軍人会と西病棟

1961（昭和36）年に日本傷痍軍人妻の会の全国結成大会が開催されると、療養所からも妻代表16名が参加し、「箱根療養所妻の会」を結成します。1965（昭和40）年には、老朽化した施設の建て替えにともない、戦傷病者とその家族専用の病棟である西病棟が完成しました。この頃に脊髄損傷の戦傷病者による「箱根療養所傷痍軍人会」が結成され、車いすで総会にも出席しました。

また、恩給などの手続きのための情報交換、参考書類の回覧などのために療養所の戦傷病者たちは日誌形式の「回覧簿」を作成していました。

このコーナーでは、情報交換などに用いられた「回覧簿」や、傷痍軍人会との交流を示す資料を紹介します。



回覧簿



箱根療養所入所者の集合写真

4.未来へ向かって

1950年代に入ると、現在使用されている標準型車いすが普及するようになっていきます。箱根療養所の入所者にとって1964年の東京パラリンピック出場は大きな転機となりました。当時の一般的な国産車いすはアメリカ製やフランス製と比べると性能がさほど高くなく、後れをとっていました。現在では国内メーカーによる多種多様な車いすの開発が進んでおり、2021年開催予定の東京パラリンピックでは競技用車いすの性能にも注目が集まっています。

このコーナーでは、箱根療養所で使用されていた車いすや2021年東京パラリンピックで用いられるバスケットボール用車いす、現在開発が進んでいるレース用車いすなどさまざまな車いすを展示します。



レース用車いす
（株）オーエックスエンジニアリング



箱根式車いす

関連イベント

証言映像上映

内 容：企画内容に関連した戦傷病者の証言映像、箱根療養所親睦会制作の記録映像を上映します。プログラムは館内に掲示しています。

日 時：会期中 10：00～17：00

場 所：しょうけい館1階 証言映像シアター

その他：鑑賞自由・無料 ※上映映像は、情報検索端末でも見ることができます。

上映時刻	映像タイトル	時間
10：00 ～ 11：00	<記録映像>箱根療養所の思い出（制作：箱根療養親睦会）	35分
	<証言映像>療養所は大きな家族～支えあい、助けあい～	10分
	<証言映像>ある生活（夫婦）	5分
11：00 ～ 12：00	<証言映像>人間の尊厳の回復につくした生涯	10分
	<証言映像>箱根療養所	13分
	<証言映像>暖かい支援にささえられて～傷痍軍人としての誇りと生きがい～	10分
12：00 ～ 13：00	<証言映像>夫の両脚となって共に歩んだ人生	24分
	<記録映像>箱根療養所の思い出（制作：箱根療養親睦会）	35分
	<証言映像>感謝の心、妻にしたためて	23分
13：00 ～ 14：00	<証言映像>四十四年間～脊髄損傷の夫とともに生きぬいて～	24分
	<証言映像>受傷の労苦と葛藤を超えて	10分
	<証言映像>妻が支えた半世紀	18分
14：00 ～ 15：00	<記録映像>箱根療養所の思い出（制作：箱根療養親睦会）	35分
	<証言映像>脊椎挫傷でも松葉杖で歩けるように	18分
	<証言映像>8人の傷痍軍人	8分
15：00 ～ 16：00	<証言映像>妻に支えられて六十余年	19分
	<証言映像>傷痍軍人の妻として・・・	15分
	<証言映像>いつも傷痍の夫を想いつづけて	14分
16：00 ～ 17：00	<証言記録映像>箱根療養所の思い出（制作：箱根療養親睦会）	35分
	<証言映像>傷痍軍人の妻として	12分
	<証言映像>二人で一人、傷痍軍人の妻として	11分

病床からフィールドへ

～スポーツに取り組んだ戦傷病者の軌跡～

開催趣旨

1964年に行われた東京パラリンピックは、第1部国際大会の国際ストーク・マンデビル競技大会と第2部の国内大会に分かれて開催されました。第1部では脊髄損傷で車椅子を使用する選手、第2部では車椅子を除いた身体障害者の選手が競いました。どちらの大会にも戦傷病者が出場し、多くの競技において記録を残しました。特に第1部国際ストーク・マンデビル競技大会では、箱根療養所（現：国立病院機構箱根病院）から2名の戦傷病者が出場し、両名とも複数のメダルを獲得する快挙を成し遂げました。

本展では、戦時中に行われたスポーツ大会や1964年東京パラリンピックの歴史を紹介するとともに、スポーツと戦傷病者の関わりを紹介します。

また、1964年東京パラリンピックのカラー記録映画を上映します。東京パラリンピックのカラー記録映画は現在確認されているものではこの作品しかありません。厚生省・国立箱根療養所（当時）が企画・製作した作品で、開会式や15の競技・種目の様子が詳細に記録されています。

主催：しょうけい館（戦傷病者史料館）
会期：令和3（2021）年3月16日（火）～5月9日（日）
会場：しょうけい館 1階 企画展示室
入場料：無料
開館時間：10：00～17：30（入館は17：00まで）
休館日：毎週月曜日・5月6日＜5月3日は開館＞
内覧会：3月16日（火）10：00～
協力：公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会、
社会福祉法人太陽の家
資料提供：公益財団法人日本障がい者スポーツ協会
問い合わせ：しょうけい館 永島 電話03（3234）7821

※状況により中止とさせていただきます。中止の場合はホームページにてお知らせいたしますので、ご確認願います。

展示構成

1. 戦時中の傷痍軍人とスポーツ大会

戦時中、日本では身体機能の回復を目指す訓練の一環として傷痍軍人によるスポーツ大会が行われていました。昭和 14（1939）年 3 月 19 日には大日本体育協会が国内初とみられる「傷兵慰問体育運動大会」を開催し、日中戦争の傷病兵ら約 150 名が出場しました。自転車運動、銃剣術などの競技が行われました。



パンフレット「傷兵慰問体育運動大会」
（昭和 14 年）

「傷兵慰問体育運動大会」以降、傷痍軍人に関する施設では様々なスポーツ大会が行われていました。特に昭和 17（1942）年、小石川後樂園スタジアムで行われた大会は、戦時中最大規模の大会であり、東京の各陸軍病院や軍医学校、職業指導所などから約 4000 人の傷痍軍人が参加し、6000 人ももの国民学校の児童も参加するほど盛大に行われました。

この章では、戦時中に行われていた傷痍軍人によるスポーツ大会の様子を中心に紹介します。



綱引きをする傷痍軍人たち



俵担ぎをする傷痍軍人たち



仮装行列をなす傷痍軍人たち

2. 国際ストーク・マンデビル競技大会の歴史と東京大会開催の要請

イギリスでは第二次世界大戦中に多くの負傷者が出ることを見越して、専門別に病院を設置しました。ロンドン郊外のストーク・マンデビルに建設された脊髄損傷専門病院（ストーク・マンデビル病院）の院長であったルードヴィヒ・グットマン博士は、脊髄を負傷した患者に残された体を最大限に使う治療法としてスポーツを早くからとり入れ、スポーツを主としたリハビリテーションに力を入れていました。

昭和 23（1948）年にはこの病院内で入院患者によるスポーツ競技会（ストーク・マンデビル競技会）を開催し、4年後には国際的な両下肢麻痺者によるスポーツ競技会として発展してきました。



ルードヴィヒ・グットマン博士
（提供：社会福祉法人太陽の家）

昭和 35（1960）年にローマで開催されたオリンピックの直後、同じ場所で国際ストーク・マンデビル競技会（のちの第 1 回パラリンピック大会）が開催されました。

その後、欧米の障害者スポーツの取り組みを視察するためにストーク・マンデビル病院を訪れた日本の障害者スポーツの関係者らは、グットマン博士から、1964 年東京オリンピックの後、国際ストーク・マンデビル競技大会を開催してほしいと要請されました。

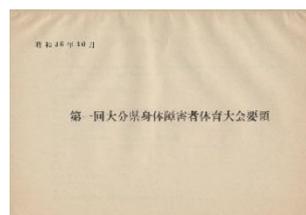
そんな中、グットマン博士の元に留学した国立別府病院の中村裕博士が中心となり、昭和 36（1961）年に大分県で身体障害者体育大会が全国で初めて開催され、身体障害者スポーツの振興と、パラリンピック開催の促進に大きな影響を与えました。

この章では、パラリンピックの歴史とその開催に尽力した人物を紹介します。

※国際ストーク・マンデビル競技会は両下肢麻痺者「Paraplegia（対まひ者）」とオリンピック「Olympic」の 2 つの言葉を合わせて「Paralympic（パラリンピック）」という名称が東京大会の際につけられたとされています。



中村裕 博士
（提供：社会福祉法人太陽の家）



第 1 回大分県身体障害者体育大会要領
（昭和 36 年）

3. 日本開催に向けて

東京でパラリンピックの開催が正式に決定されると、出場選手である脊髄損傷者を集める必要が出てきます。脊髄損傷者を受け入れている施設から多くの選手が集められ、特に箱根療養所からは日本代表選手 53 名のうち 19 名もの選手が出場することとなりました。

この章では、東京パラリンピックに向けた練習や活動を映像と資料で紹介します。



パラリンピックに向けた
フェンシングの練習



パラリンピックに向けた
アーチェリーの練習

4. 1964 年東京パラリンピック

東京パラリンピックは、第 1 部の国際ストーク・マンデビル競技大会と、第 2 部の国際身体障害者スポーツ大会（国内大会）に分かれて開催されました。第 1 部では脊髄損傷で車椅子を使用する選手、第 2 部では車椅子を除いた身体障害者（肢体不自由者・視覚障害者・聴覚障害者）の選手が競い合いました。

この章では、1964 年東京パラリンピックについて関連資料や映像を基に紹介します。

※開催期間 昭和 39（1964）年 11 月 8 日～11 月 12 日（第 1 部）
11 月 13 日・14 日（第 2 部）

注目資料：カラー記録映画「PARALYMPIC TOKYO 1964」

1964 年東京パラリンピック第 1 部国際大会の様子を収めた記録映画です。東京パラリンピックのカラーによる記録映画は、現在確認されているものではこの作品しかありません。

「1964年東京パラリンピック」カラー記録映画について

1. 基本情報

- 形式 : 16mm フィルム
時間 : 約 26 分 (内モノクロ部分あり (約 4 分 40 秒))
タイトル : 「PARALYMPIC TOKYO 1964」
ナレーション : あり (日本語)
寄贈者 : 独立行政法人国立病院機構 箱根病院
企画・製作者 : 厚生省 国立箱根療養所 (当時)



カラー記録映画「PARALYMPIC TOKYO 1964」

2. 映像・音声内容

(1) 映像内容

■主要映像

- ・開会式の様子
- ・15の競技・種目の記録
アーチェリー、ダーチャリー、卓球、フェンシング、重量挙げ、槍正確投、槍投、砲丸投、円盤投、棍棒投、車椅子競技 (50m)、車椅子スラローム (モノクロ映像)、車椅子リレー (モノクロ映像)、水泳、バスケットボール
※各競技名は映像記録の順
- ・会場周辺 (選手が利用する食堂に設置した大型スロープや車椅子専用車両など) の様子

■記録されている主要人物

- ・開会式
皇太子殿下・皇太子妃殿下 (当時)、グットマン博士、
入場行進する日本人選手団など
- ・競技記録
フェンシング競技中の青野選手 (銀メダル獲得)

(2) ナレーション

- ・日本選手団団長で医師の中村裕博士などが実施した外国人選手の実態調査の調査結果の要点と、各競技の概要や種目区分 (障害別) の紹介、日本選手と外国選手の社会環境の差異の分析などが紹介されています。

※参考資料 中村裕 1965年「国際身体障害者スポーツ大会を終りて」

『整形外科 16巻5号』p459～479

5. パラリンピックに出場した戦傷病者たち

1964年東京パラリンピック第1部の国際大会において2名の戦傷病者が活躍しました。1名は青野繁夫氏、もう1名は松本毅氏です。青野氏は水泳で2位、フェンシング団体で2位と2つの銀メダルを獲得しただけでなく、選手団の代表を務め、開会式では選手宣誓を行いました。一方の松本氏は、ダーチャリーで3位、アーチェリー団体で2位という記録を残しました。

また、パラリンピック第2部の国内大会においても、確認できている限り数名の戦傷病者が出場しており、競技の記録も残っています。

この章では、関係する資料とともに、出場した戦傷病者の活躍を紹介します。



青野繁夫氏



青野繁夫氏が獲得したメダル（水泳2位）
青野行雄氏所蔵



青野繁夫氏の
選手宣誓文が刻まれた竹細工

パラリンピックに参加して（青野 繁夫）

・フェンシングに於て、私達の技は確かに練習期間も8ヵ月という短時日で、西欧の伝統に対抗しようとするのであるから、考えれば無茶という人もあったと思うが、私達は敢然とそれに斗い、とにかくやり抜き、銀メダルを獲得出来た～（中略）～いずれにしても、水泳、フェンシングとも銀メダルを得た事は、自分の努力が報いられたものだけに、今迄の病床生活を思い、心から喜びをかくし様がなかった。

・今後自らをより一層強く持して、将来に期待して、人間として与えられた使命を果す如く、鋭意努力したいと、この意義あるパラリンピックに参加して、心に確く期した次第である。

出典：『国際身体障害者スポーツ競技会 東京パラリンピック大会 報告書』

6. 車椅子スポーツの振興

東京パラリンピック後の国立箱根療養所では、脊髄損傷者によるスポーツ発展と医学的管理を確立するために、車椅子スポーツ大会と同時に医学研究会を開催してきました。国立別府病院をはじめ、様々な関係機関の脊髄損傷者が数多く参加しました。

ここでは、箱根療養所でパラリンピックの後に行われた車椅子スポーツ大会について紹介します。



第1回車椅子スポーツ医学研究会
基調講演の様子



第1回車椅子スポーツ医学研究会
スポーツ大会の様子（バスケットボール）

映像上映

内 容：企画展に関連する映像を上映します。

日 時：会期中毎日 10：00～17：00（一部上映休止日・時間があります。）

場 所：しょうけい館1階 証言映像シアター

その他：鑑賞自由・無料

映像内容等は [上映スケジュール](#) をご確認ください。

上映スケジュール

上映時刻	映像タイトル	時間
10:00 }	<カラー記録映画>「PARALYMPIC TOKYO 1964」	26分
	<証言映像>多くの人に助けられて	18分
	<証言映像>ある生活(夫婦)	5分
11:00	<証言映像>受傷の労苦と葛藤を超えて	10分
	<カラー記録映画>「PARALYMPIC TOKYO 1964」	26分
11:00 }	<証言映像>四十四年間～脊髄損傷の夫とともに生きぬいて～	24分
	<証言映像>8人の傷痍軍人	8分
12:00	<カラー記録映画>「PARALYMPIC TOKYO 1964」	26分
	<証言映像>体験記をまとめて知った父の想い	22分
13:00	<証言映像>療養所は大きな家族～支えあい、助けあい～	10分
	<カラー記録映画>「PARALYMPIC TOKYO 1964」	26分
13:00 }	<証言映像>箱根療養所	13分
	<証言映像>誠(まごころ)で守られた命—ニューギニア戦線にて	19分
14:00	<カラー記録映画>「PARALYMPIC TOKYO 1964」	26分
	<証言映像>手の代わりに腕が・・・	11分
15:00	<証言映像>受傷の労苦と葛藤を超えて	10分
	<証言映像>暖かい支援にささえられて～傷痍軍人としての誇りと生きがい～	10分
15:00 }	<カラー記録映画>「PARALYMPIC TOKYO 1964」	26分
	<証言映像>四十四年間～脊髄損傷の夫とともに生きぬいて～	24分
16:00	<証言映像>8人の傷痍軍人	8分
16:00	<カラー記録映画>「PARALYMPIC TOKYO 1964」	26分
	<証言映像>体験記をまとめて知った父の想い	22分
17:00	<証言映像>療養所は大きな家族～支えあい、助けあい～	10分

- ◆上映時間以外でも、情報検索機にてご覧いただけます。
- ◆上映の休止：休館日、第三土曜日の12:00～17:00
- ◆団体プログラムにより、上映時刻等が変更となる場合があります。